



今や年末の風物詩となりました「2018 年新語・流行語大賞」のノミネート 30 語が 11 月 7 日に発表されました。

「セクシュアルハラスメント(セクハラ)」という言葉が、流行語大賞の新語部門を受賞したのは 1989 年のこと。10年近く前、僕が労働基準監督署の相談員を嘱託でしていた頃、「セクシーハラスメント」のことで相談があるという上品な年配の女性が窓口にいらっやいました。

僕はその「セクシー」という言い方が気になって、なんでわざわざ「シー」なんて言い方をするんだろう、普通に「セクシー」と言えばいいのにといいながら、思わず「そうですね。セクシーハラスメントは。…」と返してしまいました。その方が帰られてから顔を真っ赤にした同僚に『「セクシー」でも「セクシー」でもないでー。』と言われ、周りに笑われたことがありました。

以来、僕は「セクシーハラスメント」と言ってしまわないよう、「セクハラ」と言うようにしています。(＞_＜)

今年の流行語大賞には「悪質タックル」「奈良判定」「時短ハラスメント」「#MeToo」というハラスメントに関連する言葉が 4 つもノミネートされています。

一方、増加が続く職場でのパワーハラスメント(パワハラ)を防ぐため、この11月 19 日厚生労働省は企業に対し、防止策に取り組むことを法律で義務づける方針を固めました。

セクハラやマタハラ(マタニティハラスメント)と違い、パワハラは指導との境目が難しく、また「パワハラ」という言葉に過敏になった昨今では「飲みに行こう」と誘えばパワハラと言われる始末。何でもマニュアル化が進むと自分で考えることをしなくなりがちですので、個人的には何だかなーって感じもしています。(+_+)

もうすぐ今年も終わり。年齢を重ねるほどに、一年の時間の速さに慄きを覚えます。

僕のようにそんな思いのある年代の者にとっては「ついこの間のこと」と感じることであっても、その間には確実に長い時間が流れていて、きっと育ち盛りの若い人ほどその時間は濃厚です。世代間で価値観が微妙に違っていたり、社会の感覚も自分が思っている以上に変わっていたりすることもままあるでしょう。

苦労を積んだ学習能力の高い人ほど「こういう場合にはこうしちゃいけない」なんて自分の経験を元にしたマニュアルが頭の中にインプットされていて、せっかく受けた提案の邪魔をしていることもあると思います。

特に大転職時代とも言われる昨今、他所の会社から転職してきた人や、自分より下の世代の人の意見や感覚が、ずっと同じ会社にいた自分と違っている状況に遭遇したら、逆にそれは貴重な機会ではないでしょうか。

この会社にはこのやり方があると一方的に否定し自分の意見を押し通すのではなく、まずは意見を聞いてみて、そもそも何の為にそうするのか整理して目的や思いを共有する、良い機会にされてはどうでしょう。でないと、時に、その一方的な「否定」(の仕方)が部下にとっては「パワハラ」の始まりに映ることもあるかもしれません。

会社に在籍する、ざっと20歳前後から60歳前後までの約40年間は、人間として充実した期間といえます。

しかもフルタイムの場合、朝から夕方という24時間のうち一番いい時間帯を会社が預かっていることになります。

人生の大事な期間の大事な時間を、生きがい、働きのいい人生として過ごさなければもったいないです。

きっと皆さんだって「この会社にいて良かった」、「この仕事をして良かった」と思いたいですね。

労働心理学的には、やらされる仕事と主体的にやる仕事とでは生産性に大きな差が出るとのこと。

また、おもしろく仕事をしている場合は、疲労度が2分の1から5分の1というデータもあるそうです。

そういや新語流行語大賞のノミネートには、ベストセラー本のタイトルがありました。

「君たちはどう生きるか」。僕ならこの言葉を大賞に選びたいな。(^^)



セクシーのことだ...



セクシャルだかな...

Non! おっさんずラブ



その言い方半端ないって

そだねー



アヴニール労務事務所

未来は変えられる!

avenir